

クワじい様よりコメントを頂きました!



道具や行事について、大変勉強になるな〜と思いながら読ませて頂いています。歴史上人物など、知らない事も沢山書いてあり、実に興味深い。戦国期について、独学ですが色々勉強しているうちに戦国武将の虜となり、今では少ないお小遣いから武具を収集して組み立てるのが趣味になりました。日本一最強な具足とあってありましたか?是非知りたいです。

コメントありがとうございます。時代の戦い方によって具足は変化しています。簡単ではございますが、具足の流れをご紹介します。

大鎧 平安時代

平騎馬戦に適した全身防護具足。

梅檀板/鳩尾板

両脇は隙間があるので、敵に矢を射込まれやすい箇所です。これを防御する梅檀板と鳩尾板を肩から釣り下げ防具としました。

四間草摺

騎馬の際、鞍にまたがった時に太ももを四方の箱のように囲んだ形になり、防御の上で非常に合理的な形をしています。



胴丸 鎌倉時代

馬上での戦いに変化。上級武士には、大鎧よりも動きやすいものが求められるようになりました。そして、下級徒歩武者が増えたことで、機敏に動くために、両肩にかかる重さを軽減し、腰で重量を支えるような形に工夫されました。

特徴 胴の全体がひと続きになっている。



腹当 南北朝時代

徒歩戦に変化。主に下級武士や兵士が使用。

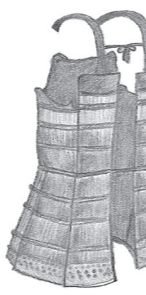
腹当

胴の前面と左右、草摺は短い寸法で3間のみ。



腹巻

背中から体を入れて背面部分で引き合わせて着用する形式。背中部分が防御出来ないのが致命的な欠点。室町時代には背板が考案され、高級な腹巻には取り付けられるようになりましたが、敵に背中を向けることを想定して作られていることから「臆病板」とも言われていました。ですが胴丸と比べ、動きやすさと格好良さから上級武士も着用するようになりました。兜などを具備して重層化し上級武士にふさわしい具足となったのです。



当世具足 戦国時代

槍・弓を始め、鉄砲を利用した戦に変化。丈夫で軽快に動けるように、様々な工夫がされ、大鎧・胴丸・腹巻を進化させた具足です。胴の形状に特徴があり、丸胴・二枚胴・五枚胴・六枚胴と胴の繋ぎ目である蝶番の数で呼び名が変わります。小札と緘で作られていた物が、槍や鉄砲からの攻撃にも強く、製作しやすい為、伊予札や板札に変化していきました。中国からの貿易も盛んとなり、高級だった朱漆塗や金銀箔による装飾を施した甲冑(鎧兜)も登場してきました。

特徴 面頬や佩楯が付いている。 胸取腰取白萌葱段緘横刺二枚胴具足



時代の変化に応じて、様々な工夫をしていた事がわかります。いつの時代でも甲冑師達は、武士達の命を守る為に最高の具足を造り上げていたのだと思います。強い気持ちや想いを具足という形にして、士気を高め、戦いに挑んでいた武将達は、自分の具足が一番最強だと思っていたのではないのでしょうか。

今号の大和魂はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。

件名: ニュースレター返信と入力して送信して下さい。



有限会社 **大名**

最新情報はホームページ <https://daimyou.com/>

広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp

TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937



届けますっ!

大和魂

2022年10月
Vol.50

経営理念

有限会社大名は「届けますっ!大和魂」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

がんばるぞー!



こんにちは。中堀明美です。少し涼しくなってきたので香川県にある金毘羅さん(金刀比羅宮)へ行ってきました!! お参りする為には、1368段の階段を登らないといけません。さあ!登ってみせるぞー!!



金刀比羅宮の主たる御祭神は、大物主神。航海の安全や豊漁祈願、五穀豊穰、商売繁昌、病気平癒などに御利益のある神様として、古くから全国の人々のあつい信仰を集めてきました。また、平安時代に讃岐国へ流され、この地で崩御された崇徳天皇を合祀し、歴代皇室から諸国の大名、一般庶民に至るまで広く信仰されています。金刀比羅宮のある象頭山は、古来より瀬戸内海航路の海の目印とされてきたこともあり航海の安全を担う「海的神様」として今も親しまれています。



ぶち大きいねえ~

道中、沢山のお店が並んでいました! かわいいお土産や美味しそうなお店に目移りします♪色々なお店に興奮しつつも体力はまだあります!この時の私は「全然しんどくないわ~」と余裕でした。のちに「足が笑う」という事を初めて体験するのでした...



着いた!?

「こんびら狗(いぬ)」

飼い主の代わりに代参する犬も現れ、こんびら狗と呼ばれていました。飼い主を記した木札、初穂料、道中の食費などを入れた袋を首から下げて、旅人から旅人へ連れられ、街通筋の人々に世話されながら、立派に務めを果たしたようです。私も、こんびら狗に頼りたいと本気で願いました。



「奉納プロペラ」

1994年(平成6年)9月に、今治造船株式会社によって奉納されたもの。大きさは直径6メートル、重量19.2トン。今治造船が「金毘羅さんも当社うまく回っていきますように...」という願いから大型船のプロペラを奉納されたとのことです。



お母さん、頑張っ!

ついに登りきりました!!



杖を持ってるのは、私だけ...

と思いきや...まだまだ...本番はこれからです。階段は続くよ...どこまでも。ふくらはぎが悲鳴をあげています(泣) そんなこんなで、なんとか最後の階段まで到着です! やっと、もう少しで頂上だ!!

登るまでに約1時間半ほどかかり、本当にしんどかったけどここに来て本当に良かったと思いました。

登りきった達成感と頂上からみる景色は疲れを吹き飛ばしてくれて澄んだ空気に泣きそうになりました。一段一段と階段を登り途中しんどくて何度も立ち止まって休んで、また登る。

まるで、人生を感じさせる道のりでした。願いは人に叶えてもらうのではなく、日々の小さな努力がいつか実を結び、いつか叶うのだという事を教えてもらった気がします。帰り道は、足が笑っていて歩き方がおかしいと子供達に突っ込まれましたが(笑) また機会があればもう一度、参拝しに登りたいと思いました。皆様も是非、香川に行かれた際は金毘羅さんに参拝してみてください。

到着し、参拝しました



こんにちは、島谷貴子です。
今号は「変わり兜」について語らせて頂きます。

変わり兜の始まり

室町時代末期頃から、戦場で自己の存在を敵味方に認識せしめるために、兜を変った形象で表現することが流行していきました。初めは、鉢の材料である鉄板自体を打ち出し、加工して制作していましたが、自己主張の意識が高まるにつれて奇抜な形も要求されるようになり、より制作しやすい手法が増えていきました。

・革を加工したもの ・紙を型に入れて加工したもの ・紙を貼り重ねにし加工したもの ・寄木に彫刻したもの
・熊毛や馬毛を植えたものを、鉢の上に付属させて装飾を施す手法が主流になっていきました。
見た目は大型に見えるものも、着用に適した重さに作られていきました。

語ります 大和魂

あらゆる形象に

武将達は、自らの思想・信条を「冠物」「結物」「神仏面」「仏具」「器物」「獣類」「魚貝」「植物」「天象」「気象」「山岳」「波」等あらゆる形象を用いて、自己表現していました。

<p>冠物</p> <p>ずきん 頭巾</p>	<p>結物</p> <p>じゅうおうがしら 十王頭</p>	<p>山岳</p> <p>いちのたに 一の谷</p>	<p>器物</p> <p>ごうす 合子</p>	<p>波</p> <p>なると 鳴門</p>
<p>神仏面</p> <p>さんぼうこうじん 三宝荒神</p>	<p>仏具</p> <p>もくぎょ 木魚</p>	<p>獣類</p> <p>ざるめん 猿面</p>	<p>魚介</p> <p>なまず 鯰</p>	<p>植物</p> <p>ばりん 馬蘭</p>

『武辺咄聞書(別名:武陰叢話) 作者:国枝清軒 時代:江戸前期』にも、
美濃国菩提城主竹中半兵衛重治が甲は一の谷と云。明智左馬助が甲は二の谷と云。
柴田伊賀守勝豊が甲は鉄蓋か峰と云。浦野若狭守が小水牛の甲。原隠岐守が十王頭。日根野織部が唐冠。
黒田長政が大水牛。福島正則が四股鹿の角。秀吉公の四日の月。蒲生氏郷が鯰尾。伏木久内かわり蛤。細川忠興(三斎)の山鳥。武田信玄の諏訪法性。台徳院殿の角頭巾。矢田作十郎が鯉の甲是等は天下に隠なき名物也。
と、多数の有名武将が被っていたことが書かれています。

そんなに目立って大丈夫?

多くの武将たちにとって、合戦で武功をあげることは富と名声の為。完全なる実力主義な戦場では、何千人から何万人もの軍勢が集まって一斉に戦い、いくら敵を倒したとしても、人ごみに埋もれてしまえば、なかなか高い評価は得られなかったでしょう。他人とは違った兜をかぶって活躍すれば、群衆の中にも、どこの誰だか一目瞭然。「～～兜着用の〇〇が、敵将の首をとったぞ～」といった目撃証言が広まれば、主君の耳にも入り、出世街道まっしぐら。武功をあげるためには、誰よりも目立つことが大事だったのではないのでしょうか。しかし、目立つことによって、敵からも認識されます。武力こそ自信もあったとは思いますが、命懸けで被っていたのではないのでしょうか。

敵の攻撃から身を守る実用性はもちろん、自分の思考や、ゲン担ぎを兼ね備えた変わり兜の種類が沢山あり、驚きました。私が選ぶ兜は、毛虫から蛹、そして成虫(蝶)へと変身していき、よみがえりや不死の象徴とされていた「蝶形兜」です。見た目も蝶で美しく、なんといっても不死の象徴というところが一番の魅力ですね。貴方様はどういった兜を選びますか?ご意見・ご感想どしどしお待ちしております。次回は「雑賀兜」を語らせて頂きます。



ハナエモンの

タイムスリップ!

今年は「～～名人」にタイムスリップしています。今号は騎馬隊名人で有名なこの方にタータイムスリップ!

江戸時代まで続いた赤備えの創始者

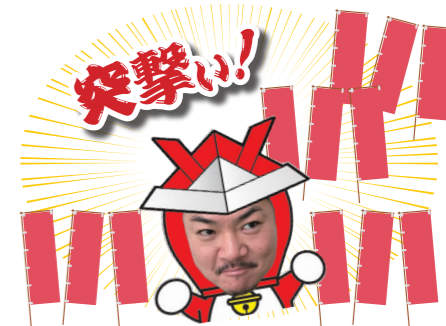
飯富虎昌

おぶ とらまさ 1504-1565年



赤備えの創始者

武田二十四将としても有名な虎昌。しかし出生に関しては諸説があり、定かではないそうです。虎昌が史料に出てくるのは1531年(27歳)、武田信虎(信玄の父)に反旗を翻し、敗れて臣従する頃からです。1541年(37歳)、信虎と子の晴信(後の信玄)が争うと晴信を支持し、信虎を追放します。その後は晴信の信任を厚く受け、数々の合戦で武功を挙げ、武田家臣団筆頭の立場にまで上りつめます。筆頭に上りつめると、虎昌は家督を継ぐことが出来ない次男・三男を中心に軍団を編成します。更に全員に目立つように朱色の甲冑を着用させます。これが**赤備えの始まり**と云われています。手柄を挙げないと出世できない集団にすることによって、恐れを知らない突撃をし、多数の武功をあげていきます。



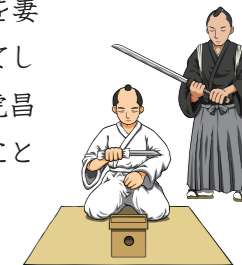
800対8000

1553年(49歳)、戦国最強とも呼ぶ声が高い長尾景虎(後の上杉謙信)と村上義清の連合軍8,000人に、800人で守る城を包囲された虎昌。絶対絶命のピンチを何とか凌ぎ、10倍の敵を撃退することに成功。「**猛虎**」と称されました。



義信事件

信玄の信任も厚く、信玄の子:義信の傅役(後見人・教育係)を任された虎昌。信頼に応えようと心血を注ぎ教育をした結果、義信は第四次川中島の合戦で活躍するほどに成長します。しかし、同盟を結んでいた今川家の弱体化をチャンスと捉えた信玄の戦略方針が今川家の娘を妻に持つ義信とぶつかることになってしまいます。諸説ありますが、義信と虎昌ら親今川派が**信玄暗殺を企てた**ことが露呈し、虎昌は自害させられます。



虎昌亡き後の赤備え



虎昌の死後、武田家最強の赤備えは虎昌の弟:山県昌景に引き継がれます。兄と同様に戦上手な昌景によって赤備えは活躍を続け、昌景の名前は引継がれ、更に名声を高めていくこととなります。江戸幕府を開いた徳川家康は生涯で2度、敵に本陣にまで迫られ、命の危機に直面しました。三方ヶ原の戦い(1573年)の山県昌景と大阪夏の陣(1615年)の真田信繁、どちらの軍勢も赤備えでした。